

2001年6月末から7月にかけて、エディ・ヒギンズ・トリオス  
スコット・ヒギンズは来日ツアーを行った。これはスティーブ・ギルモア、ドラムはビル・グッドウィン、フル・ウッズ・バンドで知られる名コンビだ。オープンした驚かない  
東京・渋谷「Jz Brit」での彼らのライブを観た。スコット・ヒギンズは今ではペタラの顔になってしまっており、ハイキース・イヴ・テナーは今ではペナを押し、レノガットなどエディ・ヒギンズのピアノと絶妙にブレンドされていた。アメリカのグッド・オール・デイズを思いつかされた。これはスティーブ・リッナーか何十年もまえに続いているアメリカン・ジャズのひとつだとも思ったけれど、ヴィナス制作のこのアルバム「夢の国にのみあはは」は、それから約3か月後の10月29日、来日イベントと同じ顔ぶれでニューヨークでレコーディングされたアルバムだ。あの米国多発テロがニューヨークを襲ったのは11月11日だった。

ご存じのように、ヴィナス制作した97年の「魅惑せしめる」がベストセラーを記録して以来、エディ・ヒギンズは一種人気が上昇して、「時の人」のような脚光を浴びている。じつはい、演奏がずばずばしかつたから人気を得たのだが、それまでヒギンズはジャズ・ピアノの名人のひとりとして知られてはいても、地味な存在だった。名を上げたいシカゴを離れて、長年フロリダに住み、地道にマイペースな活動を続けてきたヒギンズ自身も、単やかスロートソットラトを遊びたいと考えてる人ではなかったようだ。日本の突然の人気上昇は、誰よりも本音が驚いては進まない。「魅惑せしめる」以降ヒギンズは頻りにヒギンズの新作をリリースしていた。99年に「アゲイム」2000年に「愛の国にのみあはは」を発売。この「アゲイム」2000年に「愛の国にのみあはは」を発売。このほかサニーサイド原盤の「奥と白の肖像」も日本発売された。編成はドラムはギョーリウのトリオによる「ベッド」で、以外は、ピアノ・トリオだ。これらの作品はいずれも人気を呼び、ヒギンズは安定した人気を保つことができた。

そして、これまでの作品とはガラリと趣を変えて、スコット・ヒギンズとの共演「ウォン・ホーン・カルテット」編成で録音されたのが「煙が目にしみる」だ。ハルトマンは、1977年のデビュー作品以降、30枚近くのアルバムをコンコード・レーベルに残している。日本では2000年に日本版の06が再発売された。それ以前はいまだに、5年ほどに1枚でスコットが自らがリリースできなかったのが、当然ながらハルトマンの新作も発売されなかった。ハルトマンは老の間にスコットが新作をコンコードに録音している。ほとんど息が長く、安定した人気を保っているテナー・サクサス奏者だ。ハルトマンはフュージョン全盛時に登場し、「スティング・ジャズ」というブランド・スタイルを信奉する新人テナー・サクサス奏者として注目を浴びた。そのデビュー以来、20年以内にたいてい変わらぬスティング・ジャズ・スタイルで演奏を続けてきている。流行に合わせた姿勢をもくみせなかったのだが、逆は時流左右をされることなくしっかりと安定演奏を続けてきたと思う。コンコードはアメリカの良き時を思い浮かべた。落ち着いたけれど、ミルズのある大人の良さをコンセプトにしたレーベルで、ハルトマンはひたひたのジャズ・ミュージシャンだったといえる。ハルトマンは親月を兼ねることにじゅうと然い決意を固められてきた。現在47歳で、個人的な意見では彼の音楽にອງける印象に年齢がちょうどマッチしてきていると思う。

エディ・ヒギンズ(1932年2月21日生まれ)とスコット・ハルトマン(1954年9月12日生まれ)よりもとペラランを聴いて、世

## Smoke Gets In Your Eyes 煙が目にしみる Eddie Higgins Trio featuring Scott Hamilton エディ・ヒギンズ & スコット・ハルトマン

1. **メラウコリー** / **ラフディ**  
Melancholy Blues (E. Ellington) ( 5 / 32 )
2. **イッツ・ア・ロンサム・オールド・タウン**  
It's A Lonesome Old Town (John. Klein) ( 7 / 29 )
3. **あなたは何を思っているか**  
What Do You Think About Love (R. D. Baye, G. De Paul) ( 6 / 31 )
4. **ハイ・マイセルフ**  
By Myself (C. Scott. A. ) ( 6 / 18 )
5. **煙が目にしみる**  
Smoke Gets In Your Eyes (E. Ellington) ( 7 / 28 )
6. **木霊の守り歌**  
Lullaby For The Leaves (E. Ellington) ( 4 / 25 )
7. **ホーン・オブ・ザ・サン** / **アウト**  
All The Horn Comes Out (H. Parker) ( 5 / 28 )
8. **お宝を探して**  
Love Letters (C. Young) ( 6 / 31 )
9. **恋に陥れて**  
When Will I See You (L. H. Harbo) ( 4 / 53 )
10. **オール・ジズ・アン・ヘンツ・トウ**  
All The Ain Haven You (Van Hornes) ( 4 / 57 )
11. **ユアー・マ・エブリシング**  
Yours My Everything (H. Warren) ( 5 / 15 )

**エディ・ヒギンズ** Eddie Higgins ( piano )  
**スコット・ハルトマン** Scott Hamilton - tenor sax  
**スティーブ・ギルモア** Steve Gilmore - bass  
**ビル・グッドウィン** Bill Goodwin - drums

録音：2001年12月、3日 ニューヨーク、スタッド

\*

Produced by Tetsuo Hara and Todd Rankan.  
Recorded at "The Studio" in New York on October 3 and 3, 2001.  
Engineered by Katherine Miller.  
Assistant Engineer by Eiji Takayasu.  
Technical Coordinator by Derek Kwan.  
Mixed and Mastered by Venus 24th Hiver Magnum Sound :  
Shuji Kitamura and Tetsuo Hara.  
Front Cover: ©Paul Riddell, G.L.F. Tokyo.  
Inner Photo by Jack Frick, Designer: Tak.  
Scott Hamilton appears courtesy of Concord Records.

代は難たにも音楽家に共鳴する部分の多い曲の共演は、アメリカ人が懐かしめる今聴かざるを怠らないのようだ。ほんとうにこれも何年か経てでも変わらないだろう。ベースのスティーブ・ギルモア(1943年1月21日生まれ)、ドラムはビル・グッドウィン(1942年1月21日生まれ)は、共に70年代の半ばにフル・ウッズ・カルテットに加わった。その後ウィッ、ウッズ・ケインテットになってからも変わらずウッズの最も信頼を寄せるベース&ドラムとして活躍してきた。フルの全作の録音に参加しているわけではなく、2人とも他のミュージシャンとの録音も数多い。グッドウィンはプロデューサーとしての手腕も発揮している。それは録音曲編成を紹介して行う。

メラウコリー / ラフディ  
サミー・カンのアルバム、レイ・ハインツルの作品によるナンパード、ハリー・ジェームスの得意曲のひとつ、ドリス・デイ主演のジャズ映画「Young man with a horn」(情熱の狂想曲 [ラブソフィ])では、ハリー・ジェームスのトランペットがフィーチャーされている。ここではハルトマンのテナーがフィーチャーされている。

イッツ・ア・ロンサム・オールド・タウン  
ハリー・アントニアス、チャールズ・キスコが共したザンセントラルなナンパード、ナット・キング・コール、フランク・シナトラの録音がある。映画「リーディング・ラズガス」ではスティングが歌った。「あなたが戻って来なければ、ここは古びた

さびしい町になる」という歌詞の内容に胸が痛んだ。スコット・ヒギンズはハルトマンの哀切な調にグッとくる。あなたは何を思っていない

コメディ映画ならスタンダードの曲名が生まれる例は意外に少なくない。これも1941年の「キープ・エム・フライング」から誕生した名曲のバラードの名曲だ。フィーチャーされるハルトマンが、絶妙のバラード演奏を聴かしている。

ハイ・マイセルフ

アーサー・シュワルツ作曲のスタンダード・ソング。「恋も終わらなければ、とりどりで生きてく」という、こぼさずいながらサッパリした心地で歌われるホロロ曲だ。ヒギンズやハルトマンのように、友人好みのミュージシャンに演奏されることが多いように。

煙が目にしみる

ジェローム・カーン作曲のミュージカル「ロバート」から生まれた失恋の大作バラード。ジャズの名曲名曲知れず。ブラターの歌の次で、オールディーズの曲としても知られている。エディ・ヒギンズ、スコット・ハルトマンがみせる味わい深さは、まさに熟達した名人芸といったところだ。

木霊の守り歌

1932年にピコ・ビュラによってバンドがヒットさせた曲で、後にジャズ・マリン・カルテットが規定バージョンを残し、ウエスト・コースト・ジャズを代表するようになった。ヒギンズは「黒白の肖像」でも取り上げている。今回快活なテンポでスイングに演奏されている。

ホーン・オブ・ザ・サン / アウト  
ハルトマン・アレンが作曲したナンパードで、ジューデ・ガードラはロジの女性性ジャズ・シンガーに人気があるようだ。雨と太陽、失恋と元気に向うけた曲だ。ハルトマンとヒギンズの演奏は、そんな哀愁とひらけぬ気持がブレンドされた曲の情緒をもよく表現していると思う。

同題の映画主題歌で、ビクター・ヤングの作曲。最初ヒットさせたジューデ・ガードラはスロウ・バラードの名演奏を聴かしている。星に似ている

おなじみのディズレー映画「ピキオ」の主題歌で、これも残された名曲名曲知れず。最初ヒットさせたのはグレン・ミラー他。ハルトマンはスロウ・バラードの名演奏を聴かしている。

オール・ジズ・アン・ヘンツ・トウ  
ジミー・バウ・ヒューズ作曲のこの曲は、1940年フランク・シナトラ在籍時代のトミー・ドーン・オークストリなど大ヒットさせたバラード。ジャズ・シンガーで、エディ・ヒギンズらのスレディーズ・ダンプロットも録音している。ここではメディア・テンボの心地よい演奏にアレンジされている。

ユアー・マ・エブリシング  
ソウルの有名曲に似た曲名があるが、もちろんこちらはハリー・ウォレンの演奏のフ・バラード。マイルス・デヴィスがバラードの名演奏を残している。ヒギンズとハルトマンはアップ・テンボの編成で演奏している。(高井修治)